

第4回 生活支援プロジェクト 記録

開催日：2025年3月28日（金）

記録作成日：2025年4月14日

参加者（別紙参照）

1, 振り返りと情報共有

「住民主体による訪問型サービス（訪問 B）の内容は、本来助け合いであり互助の延長上にあるはずだが、現状は介護保険のヘルパーと同内容であり、ヘルパーの延長のイメージになりがちである」という1回目のPJの意見を踏まえて、現在提供されている内容がどのようになっているのかを半年間調査。その結果を報告。ニーズ調査との結果も合わせて再度共有する。（別紙）

2, 意見交換

（第2層生活支援コーディネーター兼地域包括支援センター）

○資料にあるように通院同行のニーズは多く、単発・短時間・季節的な支援を求める声が多い

○散歩・5分以内のちょっとした手伝い（ゴミ出し・スマホの相談など）に関しては、現状断っているため実績はないが、ニーズは高い

○ネットでの買い物を普及できると良いとも思うが、スマホの単発講座では獲得しきれないだろうと思う

自分の目で見て買いたいという人への移動の支援は、サポーターでは介助も行えないため難しさを感じる

○指定ゴミ袋の購入は、生協などでは行えず、困るという声も聴く

（シルバー）

○今回シルバーが提供した内容に剪定は含まれていない。剪定はのべ700-800件/年になる（草取り以外）

○シルバーは高いからやめるという声も聴く 自費サービスを利用した時に補助があったらいいと思う

○PC やスマホの支援はシルバーでも行っているが、1対1が多い。費用や効率を考えたら集めて支援するといった形にすると、お互いにやりやすくなるのではないか。これは解決できるのではないか。

（その他民間企業等委員）

○（Q 事業を知る場面はあるのか A あまり多くはない）地域包括支援センターや住民主体による訪問型サービスの内容を高齢者が集う・よく行く場所で啓発を増やしてはどうか。「ちょっと聞いてみなよ」と伝わるもの。まだ求めない方にも発信していくツールを検討。

○（Q サポーターは活動内容の枠があるなしどっちが動きやすいのか）

A ちょっとしたことをやってほしいというニーズは利用者にはある 包括のプランに示されている内容を行うよう言われており指導もしており断っている人も多いが、クレームにもつながる

○落ち葉の掃除や剪定後の処理などを考えると、高齢者は難しいと思う 季節的なものや急に起こるものをどう支援できるか

○「制度だと縛りがあるが安い シルバーはそこそこの値段だが来るのは高齢者で質がちょっと不安 民間はてきぱきやるが高い」というのはよく聞く。生活支援にまつわる多様なサービスを一元化してそれをチラシとして配架したりヘルパーやサポーターも説明できるようになるとよい 結局は信頼をおいている人に提示されるものは、理解しやすい。

- その支援者(専門職だけではなく、サポーターや民間企業の人)が唯一外界との接点者かもしれない。
- 支援者も全員が我が事になるように検討していきたい。
- 地域の中に、生活支援も活躍も選択肢が多くある体制にしていけるとよい。
- ちょっとした事を頼める近所の人・相談できる人が一人でもいればいい。

4, まとめ 今後についての意見交換

- 信頼ある人が 1.2 人いると情報も届きやすい
- 地域の中での関係性づくりも大切ということも発信しつつ、それが希薄な場合には、民間サービスの人がかわりの濃い人になることも想定される
- 情報提供できる人(専門職だけでなく、サポーターや民間企業の人も含め)を増やせると良い。
- 本業のサービスに「プラス3分の生活支援」を色んな業種が行え、それが見える化(一覧化)され、そこに補助金をあてられるという発想もひとつ。

→今回出た意見を軸に制度ありきではない自由な発想での、多様な主体による3分サービスを含めた多摩市らしい「ちょっとした穴になっているすき間を埋めるような生活支援」について検討するチーム

→訪問 B の在り方を検討する検討チーム(どこを担って・どう発信するかも含めて)

次年度の生活支援に関しては、この2本に分けて検討を進め、「多摩らしい生活支援」について進めていく

以上